

桜蔭俳話会 六月句会(第三八四回) 選句結果

令和二年六月二十五日(メールによる句会)

五句選句(そのうち、特選一句)

- 2点① コロナ禍の梅雨にこもりて昼の酒 かつ子
- 螢火や寄り添うベンチ影二つ 眞壽
- つゆ入りや雨に咲く花いと眩し 和幸
- 2点 居眠れる羅漢に苔や梅雨晴間 友子
- 1点 梅雨の街コロナしぶとく生きてをり 明美
- 3点① 梅雨入りやまだ滲み足らぬ土の色 潤子
- 万緑や吾子とコロッケパン食す 直子
- 3点 ペダル踏む琵琶湖一周山法師 守
- 4点② テキーラのグラス乾しけり誘蛾灯 秀夫
- 1点 舗装路を蛇悠々とくねりゆく ヤエ子
- 4点 名を呼べば薄目をあけて梅雨の犬 才美
- 3点 梅雨曇心に巢食う黒きもの ヤエ子
- 2点① 億年の地層の上の螢火よ 才美
- 梅雨晴間窓のかたちにシーリング 明美
- 1点 コロナ禍のカラフルマスク梅雨の人 かつ子
- 薫風とふしをり文庫にはさみけり 秀夫
- 2点 サラダ好きサクサク刻む梅雨の朝 和幸
- 睡蓮の精が私に風が来て 直子
- 2点① 梅雨晴れ間珈琲の香と再会と 潤子
- 六月に白き花咲く名を問へり 眞壽
- 1点① 紫陽花の青は蘇生の彩ならむ 守
- 山道の叫びや蛇と見間違ふ 友子
- 3点① 全身を空つぽにして夕焼中 才美
- 悪意なき蜈蚣にしかと悪意持ち 潤子
- 白髪染め止めると決心五月晴 ヤエ子
- 1点 支持率の真つ逆さまに梅雨に入る 明美
- 夕立や滴り走る窓の棧 眞壽
- 1点 腹ばひて墨吐く龍や梅雨の雲 かつ子
- 2点 母の日の母へ土鈴を鳴らしけり 直子
- エナメルの椅子より立ち上がり薄暑 秀夫
- ウイズコロナに暮らす老後や冷奴 友子
- 1点 果実三種香り漂う梅雨の部屋 和幸
- 大釜に躍りし蝦蛄鎧かな 守
- はらからの声恋ふ花袖咲きてより 才美
- 黒南風や転落防止ネット揺れ 明美
- 新茶あり九谷の急須拭いをり 直子

- 梅雨の中子猫眠るよスヤスヤと 和幸
- 螢狩ふはり手にのるエメラルド 潤子
- 1点 半夏生スマホゲームで日が暮れる 眞壽
- 丸き四葩へ顔埋めたき蟄居明け 友子
- 5点① 来し方の一つの歴史なめくじり 秀夫
- 草陰に蚯蚓消えるをそつと待つ ヤエ子
- 2点 さみだるる雲の重さや鳥ひとつ かつ子
- いくかふは生命のこだま閑古鳥 守
- 3点 タクシーの空車の列や梅雨に入る 明美
- 小流の風に透きをり糸蜻蛉 潤子
- 2点① 梅雨曇喫茶のテーブルに指環 秀夫
- 1点① 斃れしは路の半ばや蟻急ぐ 守
- 墓出でて月下に目指す水鏡 才美
- 訪ふや十葉煎じたる句ひ 直子
- 初恋の名簿捜すや梅雨あがる 眞壽
- 1点 友危篤奇跡を祈る梅雨寒し 和幸
- 五月雨や手縫ひのマスクの布選ぶ 友子
- 1点 天も地も綿菓子模様さつき雨 かつ子
- 風五月木々のささやき終い風呂 ヤエ子

「事務局から」

○第一三八回通信句会作品募集

夏の季語を用いた三句。締切りは、八月三日(月)。同封の葉書でお送りください。

○七月句会

七月二十五日(土)、午後一時から、旭区民文化センター(サンハート)で行います。通常の句会に戻ります。兼題は、「青いきれ」です

句会に参加出来ず、不在投句をされる方は、句会前日までに五句を、事務局宛(岩野ヤエ子、横浜市旭区今川町十五の十) お送り下さい。五枚の短冊と出句控えをお送りください。(ただし、不在投句の方は、選句は出来ません)